



# いづみ

No.80

2002 年創刊

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

## 自作自選 50



《小さく手を前に出す人》

大原 央聡

(2 ページに「作者の言葉」)

チーク材を使用した木彫です。色味が強い材が好きで、彫ったときの堅さと粘りの感じが独特で、素材として特に気に入ってます。最近手や足の造り方、表現方法にこだわって制作しています。これまではザックリと造ることが多かった手足の表現について、少し意識が変わってきました。第93回国展（国画会）出品作。

（1966年、空知管内栗山町生まれ。筑波大学芸術系教授）

タイトル：小さく手を前に出す人  
制作年：2019年  
素材：チーク。彩色  
サイズ：H210×W62×D60cm  
設置場所：作者蔵

## 「花束」のカタチ

業務係 田中 慶子

本郷新の「花束」のカタチは不思議ですね。

あの超なで肩。パーカー付きインナーの上に、パーカー付き超ミニ三角錐ワンピース（マント？）を着こなす少女のセンスの妙（パーカーon パーカー!!）。半球体の切り込みの入った頭部、光彩のない眼、ほほえみ。気になる要素しかありません。背景やコンセプトを知らずとも、一目で興味が湧き、記憶に残り、ふとした時にあれはどうしてああいうカタチになったのだろうと考えてしまいます。芸術作品のカタチについて、「どうして…」などというのは無粋ですが、考えずにはられません。

橋の左右で追い風と向かい風にあおられながら花束を持つ二人の少女。五輪大橋のために制作されたことを思えば、あれこれ考えを巡らせることはできます。ですが、カタチとなるとそうはいきません。想像さえまなりません。

いろいろ意味はあるようですが、それを知っても、あのカタチになるのは不思議に思います。「全体像から受ける印象」と「コンセプト」の間に、作者にしかわからないナニかがあるように感じました。そのナニかが、気になって気になって。でも、理解することは永劫かなわないのです。

本郷新の小さめの作品の中には、作家の意図しない（であろう）印象を受ける作品がチラホラあるような。私はそういった作品に魅力を感じます。鑑賞し、観察し、考察し、自分なりに納得しようとするのですが、出来そうで出来ない…ところがいいのです。

どうしてああいうカタチになったのだろう。

## 仲野三郎氏の遺産を次代に継ぐ

会員 松原 安男

小檜山博氏は、「芸術というものは、わかるものではなく感じるものではないかと考えている。…」(「神田日勝記念美術館」のパンフレットから)

本田明二は、「彫刻はだれの作品であろうと、どんな趣旨で作られたものでであろうと、見る人にとって、純粋に彫刻としていいかどうかが一番大切なこと」だが、その上で「これはだれが作り、どんな意味をもって、この場所に建っているのか、などと話を聞くと、今まで無縁に思われていた街の中の彫刻も、親しみのある身近なものになり、一層彫刻に対する興味が増してくるようになるものである」(「さっぽろ文庫 21」)と書いている。

さて、札幌彫刻美術館友の会の副会長を務められた仲野三郎さんは、山形県のご出身、定年退職後に来道。新たな生きがいを模索する中で、1993 年、札幌芸術の森野外美術館の解説ボランティアに応募。ここで多くの彫刻作品の魅力に惹かれ、副代表としても活躍された。

その後、野外彫刻の魅力に取りつかれた仲野さんは、より多くの野外彫刻を調べてみようとして、2000 年 3 月に芸森のボランティア活動を辞められ、敦子夫人との二人三脚で、ライフワークとも言える道内の彫刻めぐりをして、多くの野外彫刻作品の紹介に努められた。利尻や礼文島など離島を除き、その数 2,300 点以上にも及ぶ。カーナビが今ほど普及していなかった時代、探索の旅は容易ではなかったはずで、その苦労

がしのばれる。

本郷新記念札幌彫刻美術館が 1997 年に発行した「北海道の野外彫刻マップ」の編集にも関わられ、さらに 2010 年、札幌市が発行した野外彫刻を楽しむ小さな旅「札幌散策」にも多くの情報を提供している。

札幌彫刻美術館友の会の会報「いずみ」では、2002 年の創刊号から 10 年の 30 号まで、本郷新の彫刻作品の表紙写真と解説文を担当し、本郷新の秘話的なエピソードも連載して、好評を博した。

友の会では、野外彫刻の清掃活動も行っているが、その発端は、仲野さんの問題提起によるものだ。テープカットが終われば、保守管理者不明となり、作品の劣化も多くみられる現状に、友の会が率先して清掃活動を行っている。

札幌彫刻美術館友の会が「北海道デジタル彫刻美術館」として公開している基本的な資料は、仲野さんの功績によるところが大きい。

野外彫刻のデータベース化は 04 年、北大大学院情報科学研究科のチームが協力を始めたが、未完のままに終わっている。

続く私たちは、「北海道デジタル彫刻美術館」の内容充実と、更なる友の会の会員拡大と努めていかねばならない。

仲野さんは、《千の風》になって、私たちの活動を静かに見守っていることだろう！

仲野三郎さんは 2017 年 11 月 10 日、85 歳で亡くなりました。

## 80 号特集

札幌彫刻美術館友の会創設 40 年、会報「いずみ」創刊 20 年

## 会報「いずみ」に見る友の会 40 年の歩み

1981年、現在の本郷新記念札幌彫刻美術館の開館と同時に発足した彫刻美術館友の会も創設40周年を迎え、2002年に創刊した会報「いずみ」は今号で80号に達した。年4回の定期発行を守り、これまで一号も休むことなく、20年の時を刻んだ。会の活動を記録してきた会報「いずみ」で友の会40年の歩みをピックアップした。

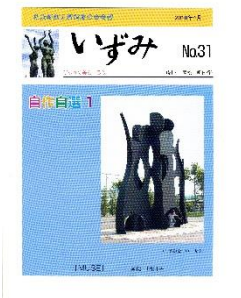
(文中敬称略。構成 大内和)

**「いずみ」創刊** 創刊号は2002年9月の発行。サイズは現在と同じA4判で6ページ。表紙に本郷新の<いずみ>像を配した。以後、「本郷新彫刻シリーズ」として写真と解説記事で30号までの表紙を飾った。写真、解説文ともに仲野三郎が執筆した。創刊号の巻頭言に会長の橋本信夫は「友の会活動を美術館主導から会の自主運営に切り替え、地域密着型の活動を展開する」と述べた。初期の編集は原稿の集まり具合によってページ数も変動した。寄稿原稿やバス旅行感想文、会員の文芸作品（短歌）など多彩。釣り好きだった本郷新の号「抜海」をタイトルにした無署名のコラム「抜海の日」が2号からスタート。展覧会評や美術館の運営に対する辛口の注文も載った。

**本郷新生誕 100 周年** 2005年、本郷新生誕100年に合わせて11号は「本郷新生誕100年記念号」と銘打った。「私の中の本郷新」のタイトルで12人の著名人に本郷新の思い出を綴ってもらった。柄内忠男、渡会純价、二部黎、柳川慶子、米谷哲夫など生前の本郷を知るメンバーが筆を執った。さらに、「本郷新100年の光」（今井里江子芸森学芸員）や小尾陞(会員)の『「わだつみ像」余聞』（3回連載）、また、仲野三郎の「本郷新のちょっといい話」は12話の連載となった。

**友の会の拠点問題** 07年、彫刻美術館が財団法人から芸術文化財団に統合されるのに伴い、友の会との微妙な関係が浮き彫りになり、19号の「友の会の転機を迎えて」で今後の会の在り方が論じられた。21号でも「友の会拠点美術館問題」で友の会の帰属問題を取り上げ、北海道新聞にも「友の会に絶縁通告 札幌市『直接的支援でない』」（07年7月7日）が掲載された。

**「いずみ」スタイル一新** 2010年1月発行で「いずみ」は30号の節目を迎えた。特集として座談会「会報『いずみ』創刊から30号まで」を組み、創刊号から編集に携わった橋本信夫、仲野三郎、斎藤美年子の3人が「ワープロで打った原稿を切ったり、貼ったりして作った」「パソコンやプリンターの故障も相次いだ」などの苦労話を披露した。一方、31号を機に会報の印刷が外部発注となり、ページ数が現在の8ページに固定された。レイアウトも大幅に変え、表紙に彫刻家が自分の作品を紹介する「自作自選」、彫刻美術館スタッフに執筆してもらう連載「宮の森の四季」を新設、「巻頭言」も40号から「風見鶏」に改めた。



**価値あるシンポジウム** 友の会の活動の中でシンポジウムの開催には力を入れた。中でも05年6月の「野外彫刻のアートツーリズム」(12号)、06年5月、当時の上田文雄札幌市長を迎えての「市長とおしゃべりしませんか」(16号)はユニークな催しとして好評だった。また、15年10月、道立近代美術館を会場に行われたシンポジウム「彫刻を創る・守る」の詳細は54号に収載された。武蔵野美大・黒川弘毅教授を中心に野外彫刻調査保存研究会など、専門家を招いての討議はその後の会の活動に大きな影響を与えた。17年の文化講演会「古代ギリシアのブロンズ彫刻」(5月28日)も印象に残る企画だった。

**自主企画「市民愛蔵彫刻展」** 友の会設立30年記念として12年、彫刻美術館を会場に「市民の愛蔵彫刻展—魅せます私のコレクション」(8月29日～9月2日)を開き、559人の来場者を迎えた。41号には盛況の様子を伝えるミニ写真グラフと来場者のアンケート結果など3ページを使って詳報した。また、出品作品の図録発行、関係者5人で愛蔵展を総括する座談会(42号)も載せた。

**視聴覚教材 DVD 制作** 05年、札幌市生涯学習振興財団「ちえりあ」が募集した視聴覚教材制作委託に応募した自作のDVD「本郷新の野外彫刻の魅力」が完成した。彫刻15点を会員のナレーション入りで解説した。以後、「野外彫刻の洗い方」「彫刻のできるまで」など最終10作目まで続き、事業終了で終止符。

**「よいこつよいこ」修復に貢献** 老朽化した札幌市円山動物園のシンボル「よいこつよいこ」像(山内壯夫)が修復され面目を一新したのは19年6月。像の劣化状態を友の会が再三にわたって市に指摘したのがきっかけとなった。夕張市の「採炭救国坑夫の像」の修復作業(22年)も友の会の助言を得た。

**医療雑誌「ケア」に連載** 社会的貢献では札幌市内の彫刻を紹介した「さっぽろ野外彫刻美術マップ」を18年から医療雑誌「ケア」に連載した。2年間にわたり24回、約130点の彫刻を取り上げた。また、続編として道内の彫刻を対象にした「北海道野外彫刻美術マップ」も2年間24回連載した。

**内容濃い講演会** 毎年の新年会、総会では芸術分野の知名人による講演会も会の目玉行事となり、各回、その道のベテランの味わい深いスピーチが参加者の期待に応えた。奥岡茂雄、丹保憲仁、常田益代、鈴木吾郎、國松明日香など枚挙にいとまがない。

**人気のバスツアー** 友の会主催のバスツアーは会員の楽しみであると同時に新会員勧誘の有力手段。道外に足を向けた長野県安曇野市の碌山美術館(05年10月)、仙台彫刻研修旅行(16年6月)をはじめ、旭川、音威子府、中札内、函館、岩内、小樽、余市など道内各地の名前が浮かぶ。

**「北海道デジタル彫刻美術館」公開へ** 道内全市町村の彫刻作品を網羅した念願の「北海道デジタル彫刻美術館」が21年1月に公開された。札幌中心の「街なかの美術館」の姉妹編。3800点の彫刻を見ることができ、74号に橋本が「35年にわたる草の根市民のささやかな努力の成果」と記した。

(「いずみ」の既刊号は彫刻美術館友の会 HP で閲覧できます)



## 札幌彫刻美術館友の会 2022 年度総会



**役員改選** 橋本信夫氏が名誉会長 高橋大作氏(副会長)は新会長  
コロナ禍で3年ぶりの開催 野外彫刻ガイドブック刊行、学生会員募集も

札幌彫刻美術館友の会の2022年度総会が5月14日、北大学術交流会館で開かれた。コロナウイルス感染拡大で20、21年度とも中止となったため、3年ぶりの開催。冒頭の挨拶で橋本会長は「友の会も発足40年を迎え、念願の北海道デジタル彫刻美術館がスタート、大きな成果を上げたほか会報も80号を数える。市民の財産である野外彫刻を守る活動をさらに活発化しよう」と述べた。

総会は猪股岩生さんを議長に選出、21年度活動報告、同決算・監査報告を承認、さらに、22年度活動計画としてデジタル彫刻美術館のデータ拡

充、雑誌「ケア」に連載した野外彫刻マップの冊子化（野外彫刻ガイドブック刊行）、IT時代にふさわしく若い世代の入会を促進する学生会員制度の新設などを提案通り可決した。また、総額150万3527円の新年度予算を原案通り承認した。

昨年の役員改選時に橋本信夫会長から強く申し出のあった会長退任要請に伴い役員改選を行い、橋本会長を名誉会長、高橋大作副会長を新たな会長に選任したほか、名誉会長新設、学生会員制度採用に伴う会則の一部改正を行った。

## 特別講演会 山田のぞみ芸術の森美術館学芸員が 「本郷新のヒューマンイズムの源流」を解説

総会終了後、一般の参加者も含めて開かれた講演会では、芸術の森美術館の山田のぞみ学芸員が「本郷新とヒューマンイズム」と題して講演した。

山田さんは本郷新が1950年代に2度にわたってヨーロッパ、アジアを歴訪した海外体験が本郷の平和主義とヒューマンイズムを形成したとし、特にピカソに芸術家としての理想像を見出した。さらに、ドイツの版画家・コルヴィッツの力強い造形に感化を受けたとして、本郷とコルヴィッツの作品の類似性などを挙げた。特に＜哭＞＜嵐の中の母子像＞にコルヴィッツの影響が見られると指摘した。



## 新体制でスタートへ

2022 年度総会で会長から名誉会長に就いた橋本信夫氏、新会長の座に着いた高橋大作氏にコメントを寄せていただいた。

### 四半世紀の支援に深謝

名誉会長 橋本 信夫

札幌彫刻美術館の支援と彫刻文化の振興をうたって発足した友の会（1981 年）が昨年開設 40 周年を迎えました。創設当初は大勢の先達や仲間により新設美術館へ手厚い支援活動が行われ、また今世紀に入り、彫刻の鑑賞、調査や清掃に努め、「街なかの美を守ろう」運動も展開することができました。この間、会報「いずみ」とホームページの発行、さらに「北海道デジタル彫刻美術館」の公開にもこぎつけました。

思えば 1997 年に初代会長國松登氏と 2 代目浦口鉄男氏のあとを受け、約四半世紀にわたって会員と関係者の皆様方の手厚いご支援のもとで無事役割を果たし、社会活動に通じた高橋大作氏につなげることができました。

会員および関係諸氏におかれましては新会長の高橋大作氏にこれまで以上のご支援をお願いするとともに長い間のご厚誼に深謝申し上げます。

### 友の会のモットーの前進を

会 長 高橋 大作

このたび札幌彫刻美術館友の会会長に就任し、その事の重大さをひしひしと感じています。会が設立されて今年で 41 年目。橋本会長が第三代の会長で 25 年の長きにわたり、野外彫刻の清掃、彫刻の資料集の作成協力、劣化彫刻の復元修復の指導、外部団体との交流、そして日本で最初の「北海道デジタル彫刻美術館」をインターネットに載せ、道内同好の市民団体との交流など次から次へと新機軸を打ち出して来られました。これまでの彫刻美術館の歴代の館長、学芸員の皆様のご支援、さらに、諸活動を支えていただいた役員や会員の皆様の多大なご支援ご協力を忘れることができません。

私も友の会のモットーにあるように「街なかの美を守ろう」「市民文化は市民の手で」「できる人が、できる時に、できることを、できるだけ」を少しでも実現させ、前進させることができるように頑張っ

### KAJIMA 彫刻コンクール

#### 渡辺行夫さんが銀賞受賞

彫刻家で会員の渡辺行夫さんが鹿島建設主催の第 17 回 KAJIMA 彫刻コンクールで銀賞（金賞なし）を受賞した。

コンクールは「彫刻・建築・空間」をテーマに建築空間に設置するにふさわしい彫刻作品が対象。

渡辺さんは北海道産のイタドリを素材にした作品「時を漂う」を出品した。受賞に渡辺さんは「イタドリは北海道の地産地消、カーボンニュートラルを実践する素材なのでこれからも魅力ある作品を作りたい」と意欲を燃やしている。



### 訃報

#### 濱 久子さん逝く

創設以来の会員で、2011 年まで副会長、監査などの役員を務められた濱久子さんが 4 月 8 日、逝去された。94 歳。会報「いずみ」創刊から 18 号までの編集責任者も務めた。

### 彫刻美術館・芸森野外彫刻美術館

#### 会員証提示で入館料無料

札幌彫刻美術館と芸術の森野外彫刻美術館の入館料が会員証の提示で無料になる制度をご存知ですか。両館との優待制度の取り決めで入館料を友の会が負担することになっています。ぜひ、ご活用ください。

**事務局日誌**▼22年10日＝定例役員会(エルプラザ)総会日程、助成金申請▼29日＝会報79号発送彫刻学習会(エルプラザ)▼4月14日＝定例役員会(エルプラザ)総会準備、会報80号企画▼28日＝彫刻学習会(かでる2・7)▼5月10日＝臨時三役会(市役所)総会議案検討▼13日＝定例役員会(エルプラザ)総会準備、会報80号企画▼14日＝2022年度総会・講演会(北大学術交流会館)▼27日＝彫刻学習会(かでる2・7)

**編集後記**▼会報「いずみ」が創刊20年で80号に達した。友の会自体も発足40周年。これまで多くの人の支えがあつての現在だが、中でも全道の彫刻を調べ回った仲野三郎さんの功績は大きい。松原安男さんに仲野さんの偉業について筆を執ってもらった▼80号にふさわしい特集を考えたが名案浮かばず、「会報に見る友の会40年の歩み」でお茶を濁すことになったが、どんな出来事があつたのか何度も古い会報をひっくり返した。そんな中から、記録がいかに貴重な史料になるかを再認識した。(大内)

札幌彫刻美術館友の会  
会報「いずみ」 No.80  
2022年7月1日発行  
発行人 高橋 大作  
編集者 大内 和  
(札幌市清田区清田5-4-6-30  
011-884-6025)  
印刷 山藤三陽印刷

## 会報「いずみ」80号 目次

|                                                 |                |     |
|-------------------------------------------------|----------------|-----|
| 自作自選50《小さく手を前に出す人》                              | 大原央聡 . . . . . | 表紙  |
| 宮の森の四季50『花束』のカタチ                                | 田中慶子 . . . . . | 2   |
| 風見鶏「仲野三郎氏の遺産を次代に継ぐ」                             | 松原安男 . . . . . | 3   |
| 特集「会報『いずみ』に見る友の会40年の歩み」                         | . . . . .      | 4-5 |
| 友の会ニュース . . . . .                               | . . . . .      | 6-7 |
| 2022年度総会／講演会／新体制スタート／渡辺さんが銀賞<br>／訃報 濱 久子さん／お知らせ |                |     |
| 事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか                              | . . . . .      | 8   |

## 本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

### 本 館

#### ■生誕100年

藤川叢三展

6月11日<sup>土</sup>～8月31日<sup>水</sup>

マリノ・マリーニに師事し、独自の彫刻表現を追求した藤川叢三の生誕100年記念展。ブロンズ像のみならず彩色されたテラコッタ像や版画作品なども紹介する。道教育大で教鞭を執った教育者としての側面にも触れる。

### 記念館

#### ■コレクション企画展

本郷新の言説

6月11日<sup>土</sup>～2023年4月16日<sup>日</sup>

芸術論、作品論、風土論など多くの文章を出版や手記を通じて遺した本郷新。本展では、それら言葉や思想をなぞっては、彫刻や絵画に立ち返り、言説と造形との関係を検証することを試みる。

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<https://sapporo-chokoku.jp>